

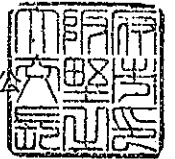


交 都 道 工 発 第 42 号

平 成 20 年 10 月 20 日

国土交通省 道路局長 殿

交野市長 中田 仁公



今後の道路行政についての意見・提案について(回答)

平成20年9月19日付け国道企第37号にて依頼のあった標記について、別紙のとおり回答致します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

大阪府 交野市

これまでの道路行政において、一貫して道路整備を行った結果、現在は一定量のストック(道路網)が形成され、今後は人口減少・高齢化・成熟型社会に対応した道路行政へ転換すべき時期にあるものと思われる。

国の直轄道路においては、既に歩道拡幅・バリアフリー化など歩行者、特に高齢者や障がい者にやさしい道路の整備、公共交通機関をより積極的に活用できるような道路整備に取り組んでいるところも多いと思われるが、自治体管理道路については、予算の関係上、国のように取り組めない状況である。

なお補助金を活用することによって、自治体でもそういった道路整備を行うことはできるが、自主財源の確保や補助採択基準を鑑みると、採択基準に合致する幹線道路や、駅周辺などの人々が集約する限られた箇所しか整備することしかできず、通学路や主要な生活道路、また駅周辺であっても抜け道等に利用される生活道路等、より地域に密着し地域住民の利用が頻繁な箇所には、歩道整備やバリアフリー化どころか車道部分の舗装修繕等維持管理もままならないのが実情である。

これまでの国の道路行政においては、道路行政マネジメント等、国民の視点に立った施策を実施してきてはいるものの、やはり、大規模な直轄国道・バイパスや中央幹線道路整備を中心としたものに限られ、上記のような地方自治体が他に整備を必要としている箇所に対してまで及んでいないと思われる。

もちろん国であれ地方自治体であれ各々の道路管理者の責任において、道路整備事業を実施すべきであると言われればそれまでであるが、国のような特別会計がない地方自治体では、長期的視野に立った道路整備への投資よりは、福祉など他の項目に優先的に予算配分される傾向があるため、年々道路整備への投資額が減少している現状では、上記のような人口減少・高齢化・成熟型社会に対応した道路整備を行うことはとうてい不可能であると言わざるを得ない。

よって、こういった現状を打破し、真に地域住民にとって必要な道路整備を行うには、これまでの中央集権的な政策だけでは、限界であると思われる。また地域事情を反映させるには、国による直接の施策より地方自治体に任せたほうがより効率的・効果的であると思われる。「地方でできるものは地方へ」税財源移譲も含め検討願いたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

大阪府 交野市

②ー1 地域の現状と抱える課題

○現状

○本市の市街地には南北に京阪電鉄、東西にJR学研都市線の鉄道(駅6箇所)があり、身近に鉄道を利用できる環境にあるとはいうものの比較的道路の整備が遅れている。

○道路整備は、補助採択基準をクリアできるような場所に限られてしまう。

今後の人口減少・高齢化・成熟型社会を考慮すると、歩行者、特に高齢者や障がい者に配慮した歩道整備や、各主要公共施設を結ぶ道路整備、駅周辺であつても抜け道等に利用される生活道路や通学路のハード面での安全対策など、他に整備を必要としている箇所については、積極的な整備が困難な状況である。

また、現状道路の維持管理についても、車道の舗装修繕でさえままならない状況である。

○課題

国等の補助金については、補助採択基準のハードルの高さ、自主財源の確保が困難である。また自治体の財政は、国のような特別会計ではなく一般会計であり、長期的視野に立った道路整備への投資よりは、福祉などに優先的に予算配分される傾向があるため、年々道路整備予算が削減されているのが現状。

②ー2 地域の目指すべき将来像

○少子・高齢社会をむかえて、都市はさまざまな利便施設や生活サービスを円滑に安心して利用できることなど身近な暮らしを支える観点がますます重要となってくることから、鉄道と道路交通の円滑な連携を図ることで市民の暮らしの利便性を支える交流のネットワークを形成。

○第二京阪道路・JR学研都市線沿線には、今なお多くの農地が広がり、本市の基幹となる公園や緑地の配置もあって緑豊かな市街地景観を形成していることから、今後はこの方向を、まちづくりネットワークの《緑と交流の主軸》と位置づけ、第二京阪道路の整備や市街地の整備などを通じて市民の安全で快適な交流の展開や緑の創出を積極的に図り、市街地における緑と交流の中心軸を形成。

○生活道路については、通過交通の排除とともに、歩行者や自転車利用者の安全性・快適性に配慮し地域の実情に合った愛着のもてる道路を整備、さらに高齢者や障がい者に配慮した歩道の設置や拡幅、段差の改善など、道路のバリアフリー化を行う。また、安全で快適な道路の維持・管理に努めることにより、円滑な交通の確保と災害時における機能の確保を図る。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

大阪府 交野市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
交野市総合計画(第4次)を平成22年度目標で策定中であり、 現時点では整理できないため今回は割愛します。			